

2023

01

January

ツナグ
働き方
研究所

Spot-Work Market Data-Report

スポットワーク マーケット データレポート

2022年
11月度版



スポットワークマーケットを定点観測する意義

○マーケットの定義

スポットワークとは、単発、短時間、短期間で働く「継続した雇用関係」のない働き方を指します。その中でも、雇用契約を結ばない“ギグワーク”と、単期雇用契約を結ぶ“単発バイト”の2種類に分類されます。こうしたワークスタイルで働く個人、活用する企業の市場がスポットワークマーケットです。

○マーケットの現状

スポットワーカーは、働き方改革法案の施行、コロナ禍を契機に急増しています。

個人) 働き方改革による残業規制、コロナ禍による休業や勤務時間減少は、追加で収入を得たいという働き手を増加させました。
企業) 収益確保、生産性向上の観点から、ムダやムラのない＝必要な時に必要な数だけ人材を配置する最適化思考が高まりました。
技術) テクノロジーの進化により、タイムリーかつオンデマンドなマッチを提供するスポットワーク求人事業者が増えました。

「単発、短時間、短期間で働く」というワークスタイルは、今後さらに広がりを見せていくことが予見されます。

○定点観測する意義

総務省統計局の「労働力調査」では、2018年からILO基準の「未活用労働指標」を導入しました。例えば、その中にある「追加就労希望就業者」は「広義の失業者」とも言われる労働者です。現状の就労に追加して「単発、短時間、短期間で働く」ことは、労働者の収入安定、すなわち広義の失業率の改善につながります。一方、マクロ的には、潜在的な労働力活用は国力の向上に寄与することになります。こうした観点からも、スポットワークマーケットを定点観測し、市場規模の動向、有益なトピック、内在する課題などを可視化することには、おおいに社会的意義がある。我々、ツナグ働き方研究所は、そう考えます。

03	概況
05	就業構造/未活用労働指標 LU1/LU2/LU3/LU4
07	※追加就労希望就業者推移
08	※広義の失業者/失業率
11	スポットワーク求人倍率
13	※職種別・地域別
15	スポットワーク新規求人件数推移
17	スポットワーク平均賃金
19	※スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較
20	※スポットワーク・アルバイト賃金主要職種比較



スポットワーク 求人倍率

前月から+0.43ポイント、
前年同月から+0.04ポイント。

2.49 ↑
倍



地域別 スポットワーク 求人倍率

地域別でみると
東海が4.55倍で、
群を抜いて高い

4.55 ↑
倍
(東海エリア)



職種別 スポットワーク 求人倍率

キャンペーン・PR
系が、19.49倍で最
も高い(前年同月比
+10.80ポイント)

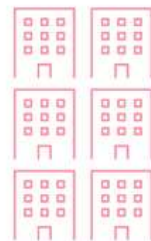
19.49 ↑
倍
(キャンペーン・PR系)



新規 ワーク数

前月比+9.8%、
前年比+44.9%

8.6 ↑
万件



追加就労希望就業者

※2022年7-9月

4-6月比20万人減、
前年比49万人減。

174
万人 ↓



広義の失業率※2022年7-9月

労働力人口に占める失業者と
追加就労希望就業者の割合。
対前年で0.9ポイント改善。

5.4 ↓
%



スポットワーク 平均賃金

前月から+16円、
前年同月から+57円。

1,161 ↑
円



アルバイト賃金 との格差

三大都市圏のアルバイト平
均賃金は1,149円、
スポットワークは1,161円。

+12 円



職種最高賃金 (倉庫内軽作業)

スポットワーク主要職種
で、最も賃金が高いのは、
倉庫内・軽作業

1,236 ↑
円

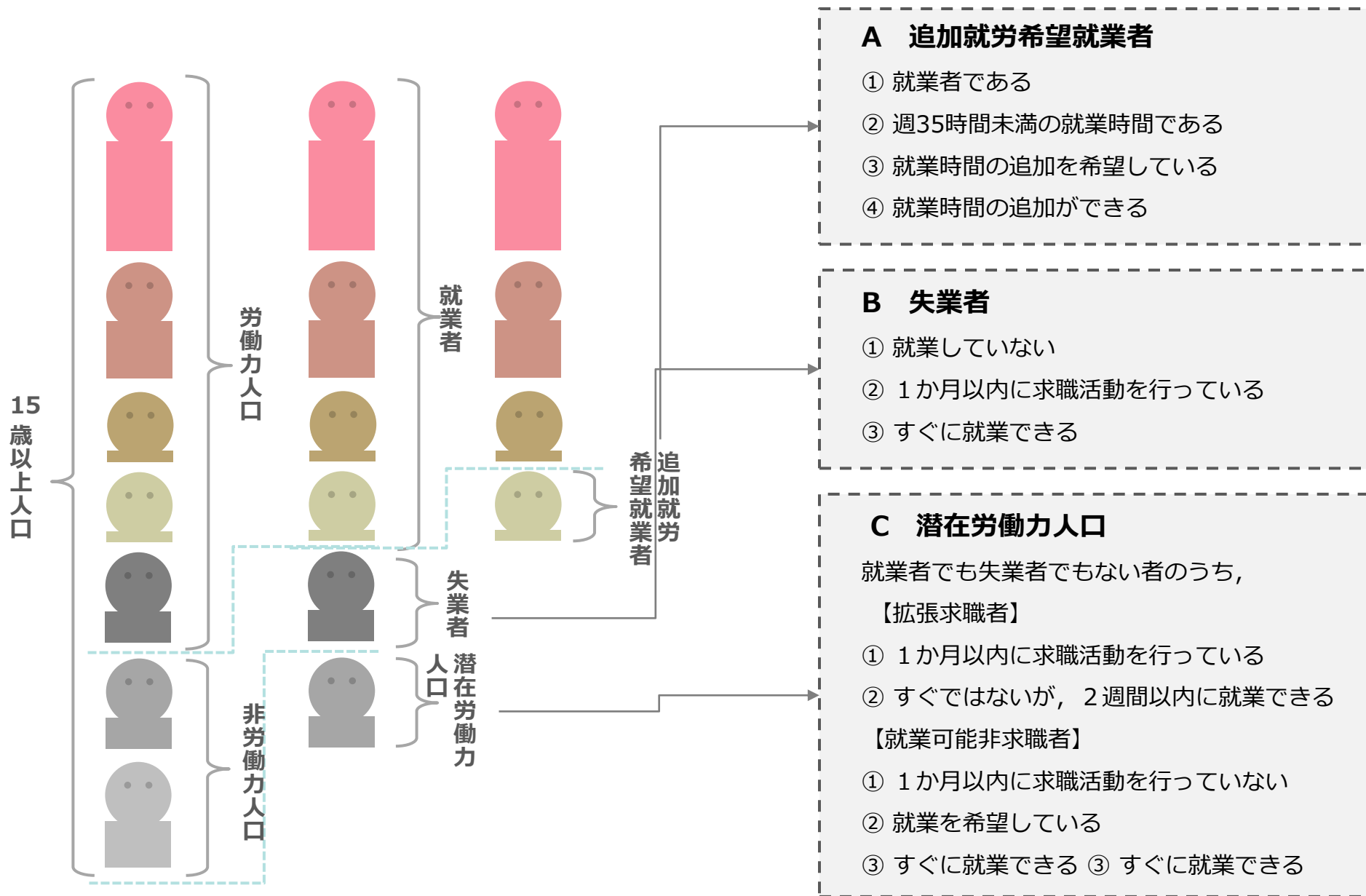


職種賃金格差 (倉庫内軽作業)

アルバイト賃金と比較し
て、最も賃金格差が大き
いのは倉庫内・軽作業

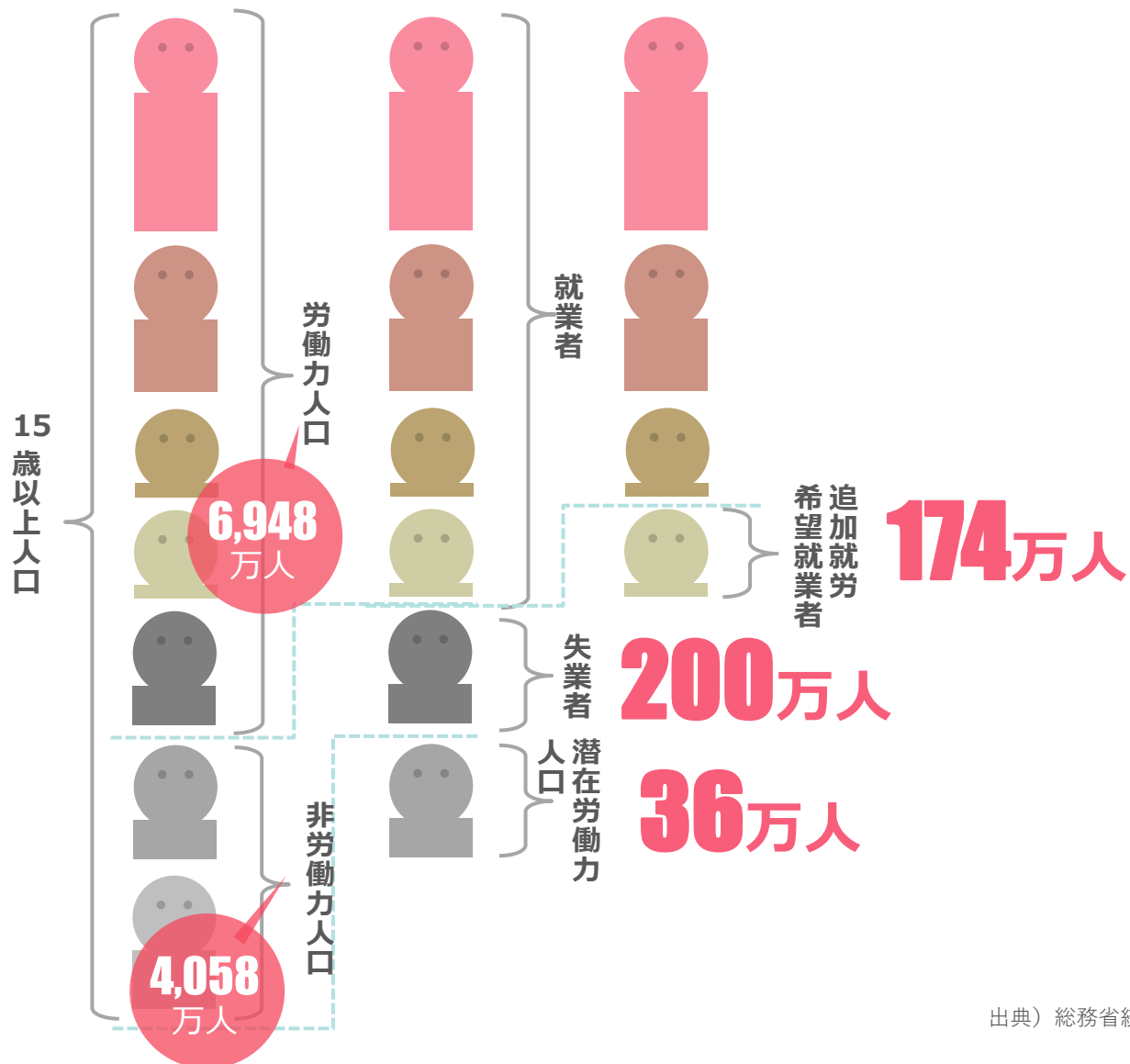
+37 円

スポットワーク労働市場



未活用労働力/2022年7-9月

- 2022年7-9月の失業者は200万人、追加就労希望就業者174万人。
- 失業者は4-6月207万人から7万人減、追加就労希望就業者は4-6月194万人から20万人減。



LU: Labour Underutilization (レイバー・アンダーユティリゼーション)

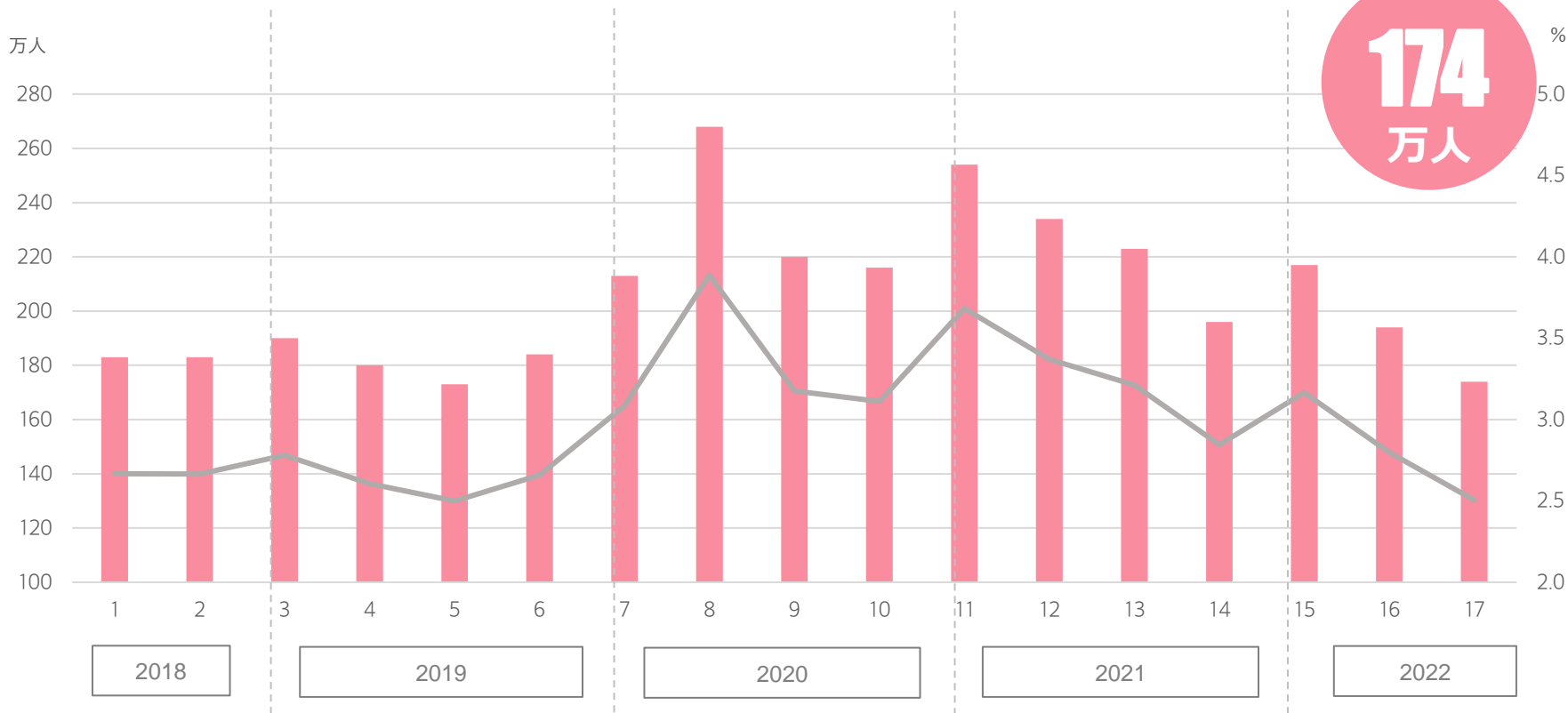
LU1	$\frac{\text{失業者}}{\text{労働力人口}}$	2.9%
LU2	$\frac{\text{失業者} + \text{追加就労希望就業者}}{\text{労働力人口}}$	5.4%
LU3	$\frac{\text{失業者} + \text{潜在労働力人口}}{\text{労働力人口} + \text{潜在労働力人口}}$	3.4%
LU4	$\frac{\text{失業者} + \text{追加就労希望就業者} + \text{潜在労働力人口}}{\text{労働力人口} + \text{潜在労働力人口}}$	5.9%

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)7~9月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

追加就労希望就業者推移（季節調整値） / 2018年7月～2022年9月



- 2021年1-3月期から10-12月期まで減少、2022年1-3月期で増加したものの、4-6月期から再び減少傾向。（4-6月期194万人）
- 4回目の緊急事態宣言下にあった前年同時期（2021年7-9月期）の223万人/3.2%からは大きく改善。



174
万人

	2018年		2019年			2020年				2021年				2022年			
	7-9月期平均	10-12月期平均	1-3月期平均	4-6月期平均	7-9月期平均	10-12月期平均	1-3月期平均	4-6月期平均	7-9月期平均	10-12月期平均	1-3月期平均	4-6月期平均	7-9月期平均	10-12月期平均	1-3月期平均	4-6月期平均	7-9月期平均
追加就労希望就業者	183	183	190	180	173	184	213	268	220	216	254	234	223	196	217	194	174
追加就労希望就業者率	2.7	2.7	2.8	2.6	2.5	2.7	3.1	3.9	3.2	3.1	3.7	3.4	3.2	2.8	3.2	2.8	2.5

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)7～9月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

参考) 広義の失業者/失業率 (季節調整値) /2018年7月~2022年9月

- 失業者と追加就労希望就業者を足した「広義の失業者」は374万人。LU2にあたる「広義の失業率」は5.4%。
- 4-6月の401万人から27万人減。内訳は失業者は7万人減、追加就労希望就業者は20万人減。
- 2022年1-3月期から追加就労希望就業者は減少傾向にあり、失業者は4-6月期に増加したが、7-9月期で再度減少。

5.4%



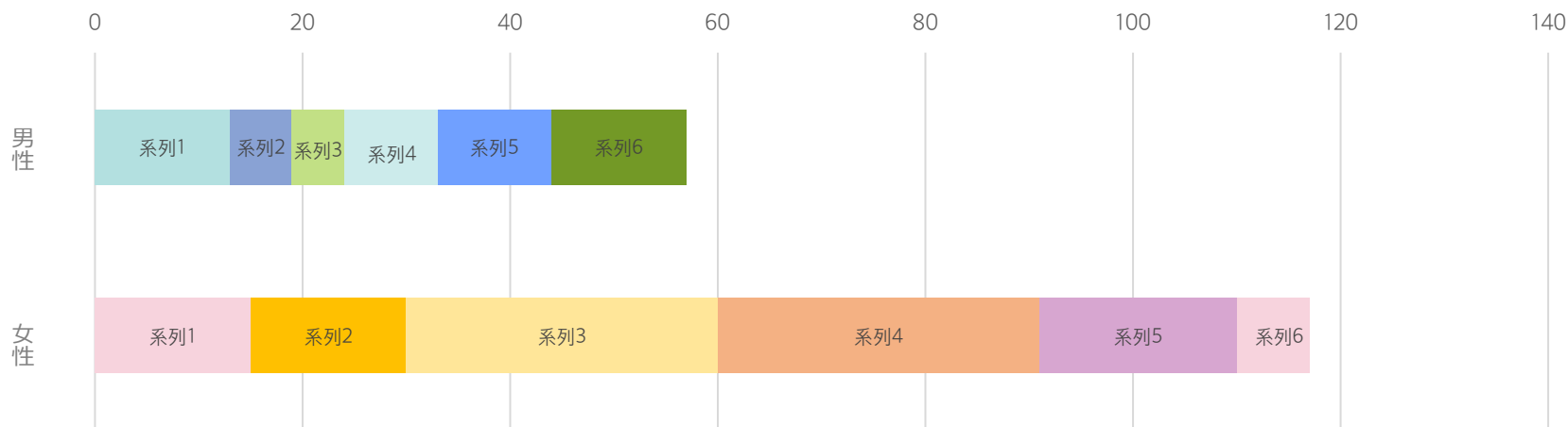
■追加就労希望就業者 ■失業者 —LU2 (広義の失業率)

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)7~9月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

追加就労希望就業者 男女別×年齢階級別（季節調整値） /2022年7-9月



- 男女別では、男性56万人/女性118万人と、女性が全体の68%を占める。ボリュームゾーンは45-54歳の40万人。
- 対前年で見ると全体で-49万人で男性が34万人の大幅減少。ボリュームゾーンの45-54歳は17万人の減少。



	総計	15～24歳	25～34歳	35～44歳	45～54歳	55～64歳	55～64歳
男女計	174	28	21	35	40	30	19
男性	56	13	6	5	9	11	13
女性	118	15	15	30	31	19	7
前年同月比							
男女計	-49	-5	-9	-5	-17	-5	-9
男性	-34	-6	-7	-5	-9	-2	-5
女性	-15	1	-2	-1	-8	-3	-3

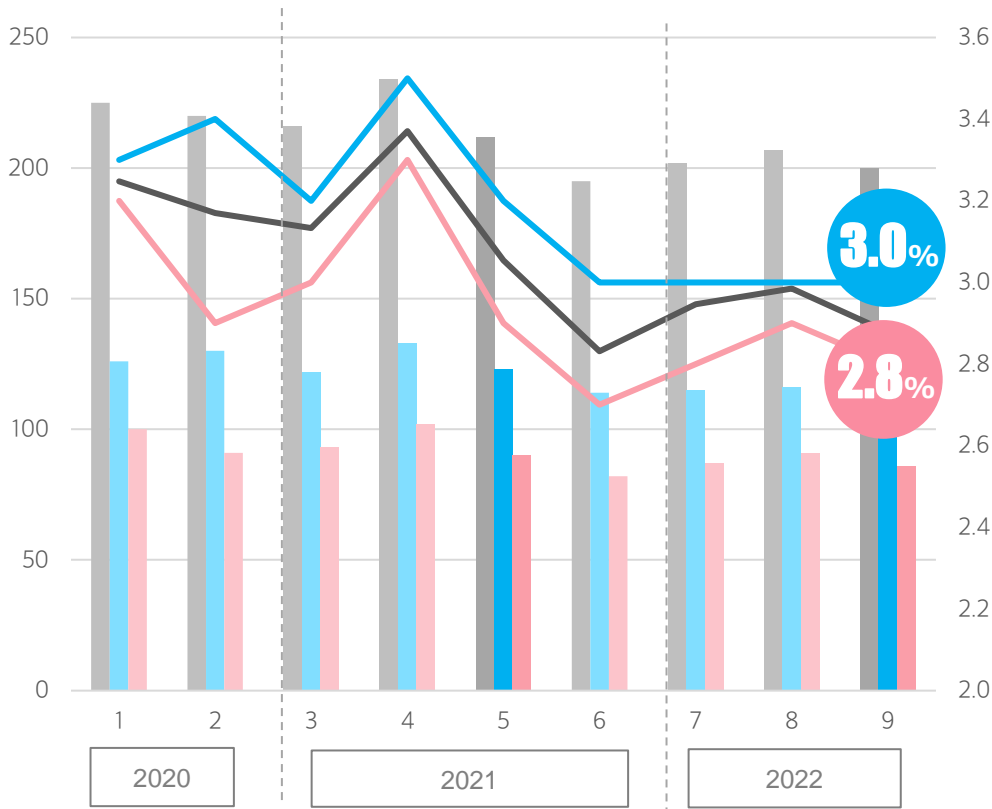
出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)7～9月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

男女別未活用労働推移/2020年7月～2022年9月

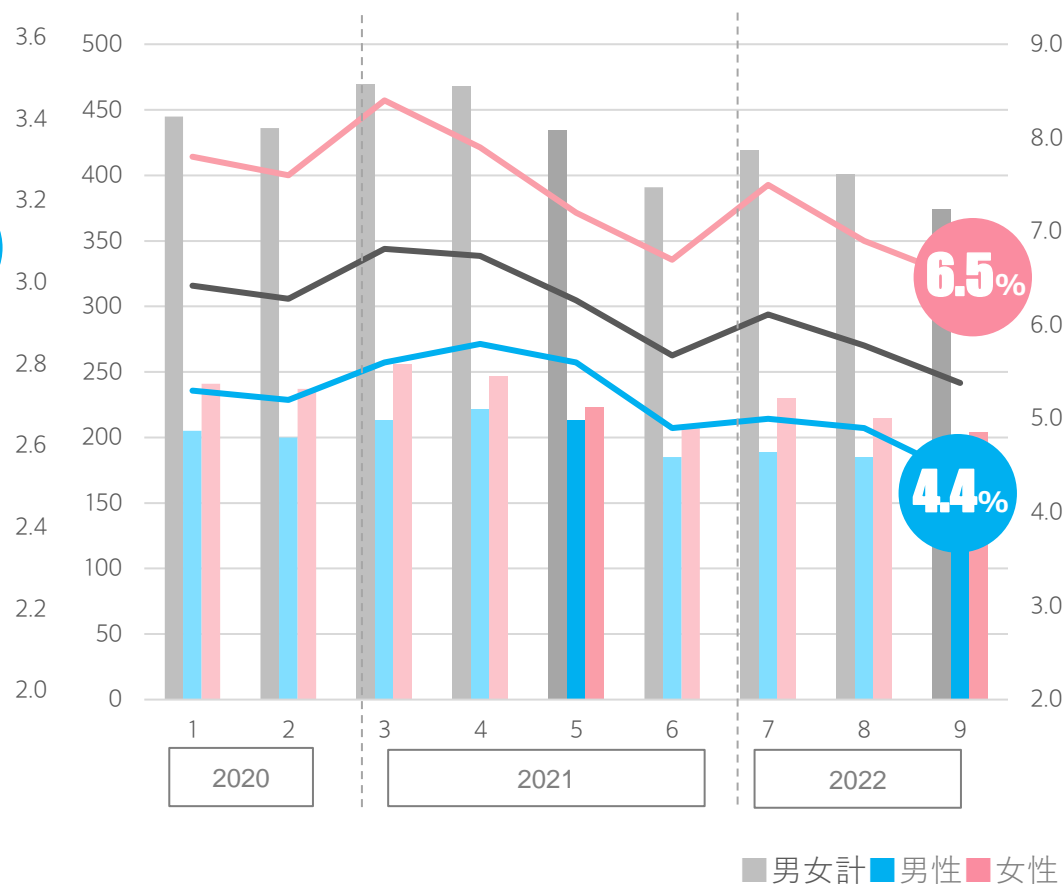


- 失業率は男性3.0%/女性2.8%で、男性が27万人多い。逆に失業率+追加就労希望就業率は男性4.4%/女性6.5%で、女性が35万人多い
- 対前年比では、失業者：男性-10万人/女性-4万人、追加就労希望就業者：男性-34万人/女性-15万人と男性が大幅に改善した

失業者（未活用労働1）



失業者+追加就労希望就業者（未活用労働指標2）



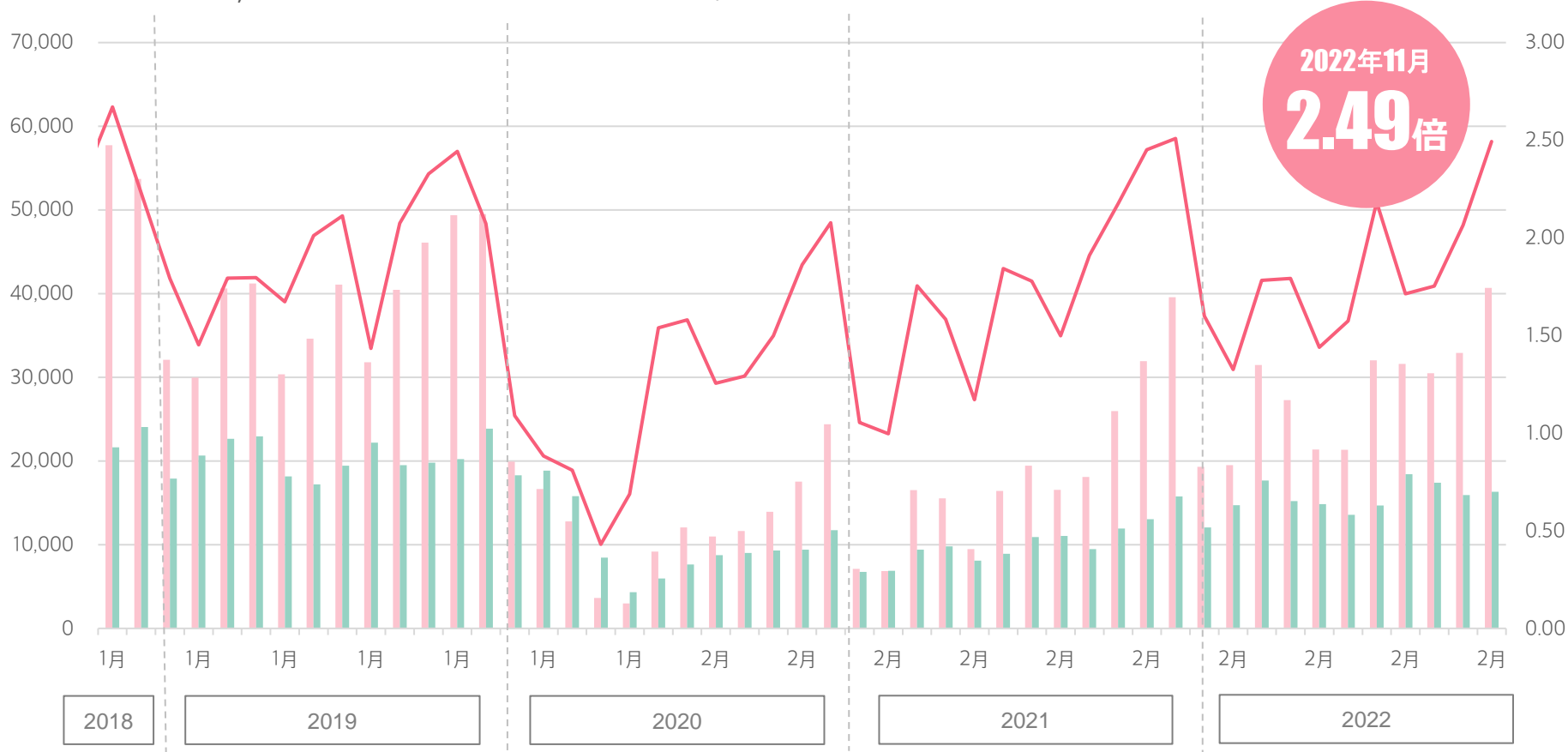
■ 男女計 ■ 男性 ■ 女性

出典) 総務省統計局「労働力調査(詳細集計)」2022年(令和4年)7～9月期平均を加工
<http://www.stat.go.jp/data/roudou/sokuhou/tsuki/>

スポットワーク求人倍率

スポットワーク求人倍率の推移

- 2022年11月度のスポットワーク求人倍率は2.49倍。
- 前月より求人数が+7,762件、求職者が同+369人となり、求人倍率は0.43ポイント上昇。



	当月		前月比	前年同月比	前月		前年同月
— 求人倍率	2.49	倍	0.43	0.04	2.06	倍	2.45 倍
■ 求人数	40,673	件	23.6%	27.3%	32,911	件	31,940 件
■ 求職者数	16,313	人	2.3%	25.1%	15,944	人	13,035 人

出典) 単発/バイト求人サイト「ショットワークス」2018年11月～2022年11月データを加工
 ■ 求人数：ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数：当月登録UU数+前月以前登録者の応募UU数

参考) 職種別スポットワーク求人倍率

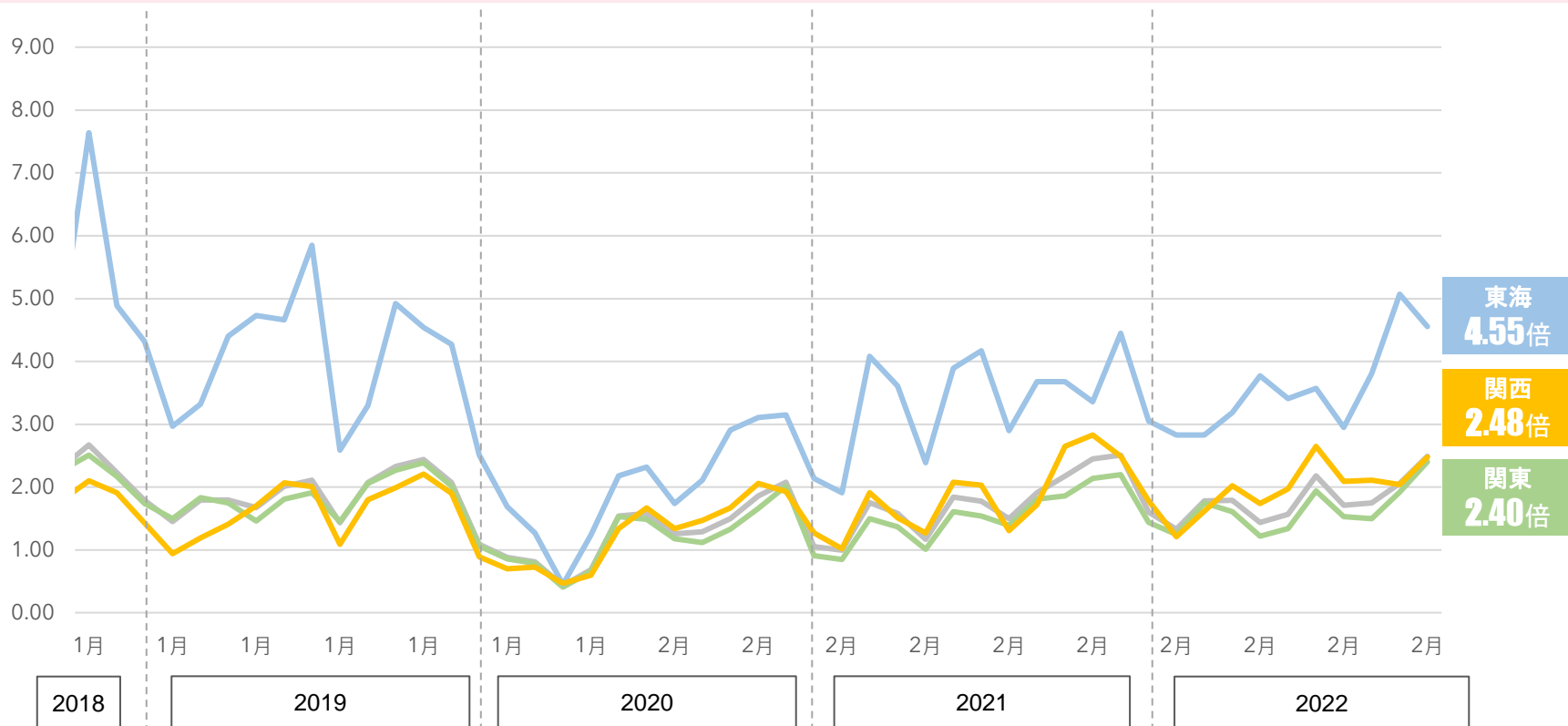
職種名	2018 11月	2019 11月	2020 11月	2021 11月	2022 11月	前年比
イベントスタッフ	1.32	1.14	0.93	1.19	1.24	0.05
飲食・フード	2.03	2.76	3.17	2.85	2.78	-0.07
倉庫内・軽作業	2.29	2.33	1.81	2.56	2.51	-0.05
組立工	2.54	2.90	2.26	2.84	2.97	0.13
コンビニスタッフ	4.67	5.99	4.36	5.35	6.91	1.56
キャンペーン・PR系	7.23	11.47	5.98	8.69	19.49	10.80
運送・ドライバー系	2.92	3.66	4.31	6.85	10.05	3.20

職種名	2021 11月	2021 12月	2022 1月	2022 2月	2022 3月	2022 4月	2022 5月	2022 6月	2022 7月	2022 8月	2022 9月	2022 10月	2022 11月	前月比
イベントスタッフ	1.19	1.21	1.06	0.63	0.83	0.84	0.79	1.01	1.29	0.86	1.11	1.22	1.24	0.02
飲食・フード	2.85	3.82	2.17	1.50	1.78	1.92	1.27	1.55	1.61	1.63	1.58	2.21	2.78	0.57
倉庫内・軽作業	2.56	2.46	1.57	1.26	1.73	1.90	1.43	1.51	2.17	1.68	1.65	2.05	2.51	0.46
組立工	2.84	2.26	1.73	1.44	2.01	2.67	2.07	1.56	3.26	2.46	2.24	2.54	2.97	0.43
コンビニスタッフ	5.35	6.24	6.04	4.74	6.15	7.59	6.85	6.41	7.88	7.22	6.18	6.42	6.91	0.49
キャンペーン・PR系	8.69	9.41	8.35	5.26	6.65	5.99	8.91	5.38	7.24	10.91	8.66	17.11	19.49	2.38
運送・ドライバー系	6.85	6.86	3.60	3.76	4.89	3.97	2.93	2.63	4.37	4.50	4.73	6.94	10.05	3.11

出典) 単発/バイト求人サイト「ショットワークス」2018年11月～2022年11月データを加工

■ 求人数: ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数: 当月登録UU数 + 前月以前登録者の応募UU数

参考) 地域別 スポットワーク求人倍率推移



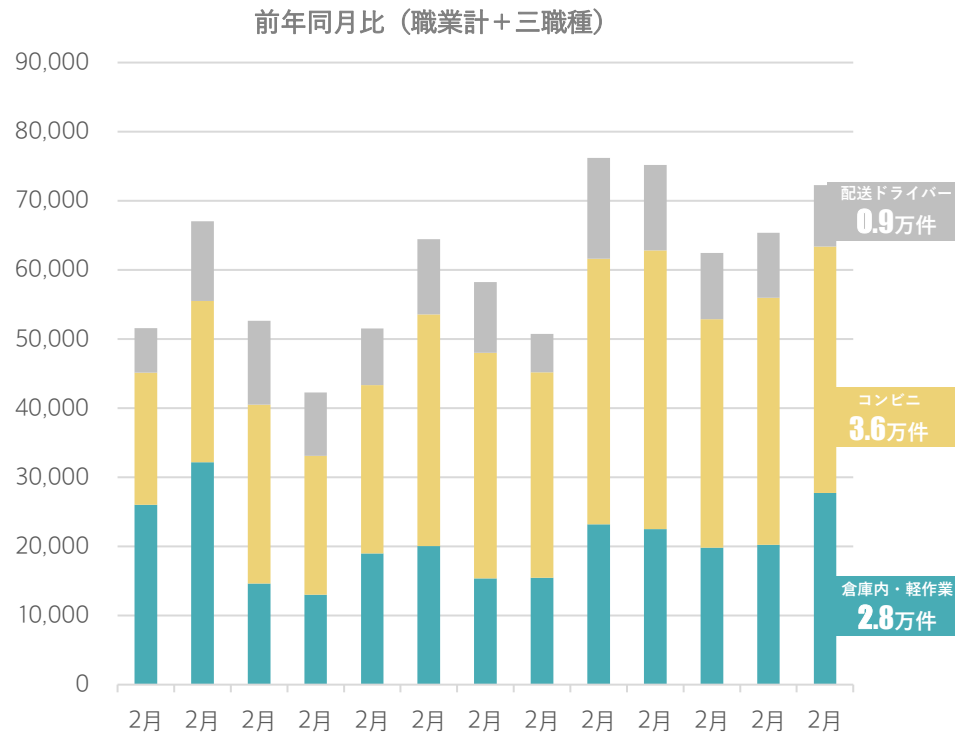
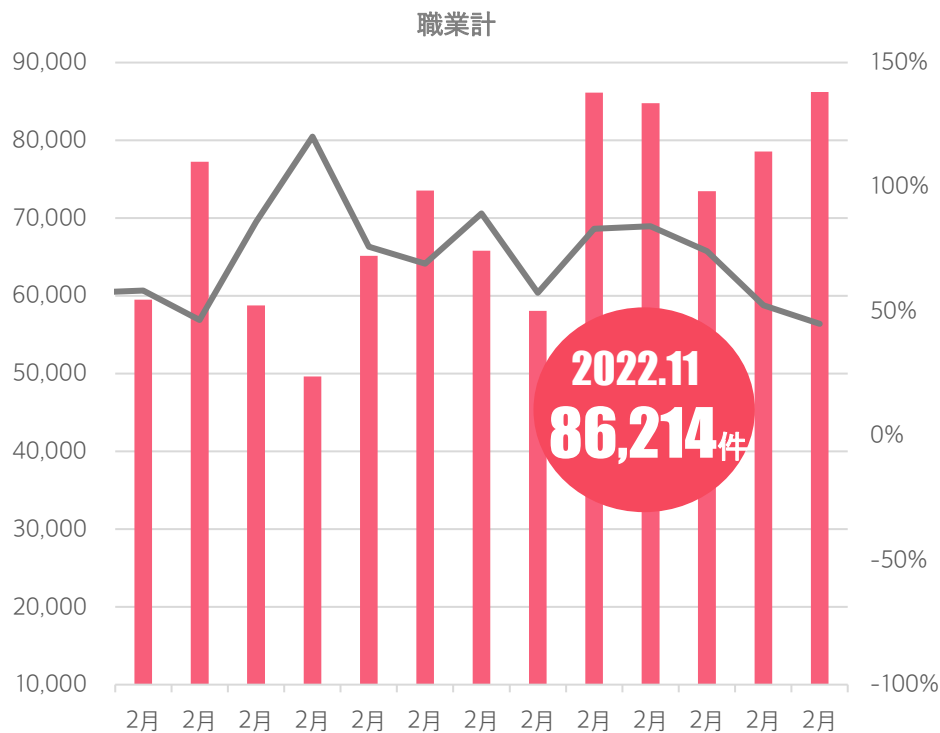
		■全国	■関東	■東海	■関西
求人倍率	当月	2.49	2.40	4.55	2.48
	前月比	↗	↗	↘	↗
	前年同月比	↗	↗	↗	↘
	前月	2.06	1.92	5.07	2.04
	前年同月	2.45	2.14	3.36	2.83

出典) 単発/バイト求人サイト「ショットワークス」2018年11月～2022年11月データを加工

■ 求人数: ショットワークスにおける当月のワーク出稿数 ■ 求職者数: 当月登録UU数+前月以前登録者の応募UU数

職種別新規ワーク数推移

■ 景気の先行指標とも言われる新規ワーク数は、前月から7,669件増加し86,214件。

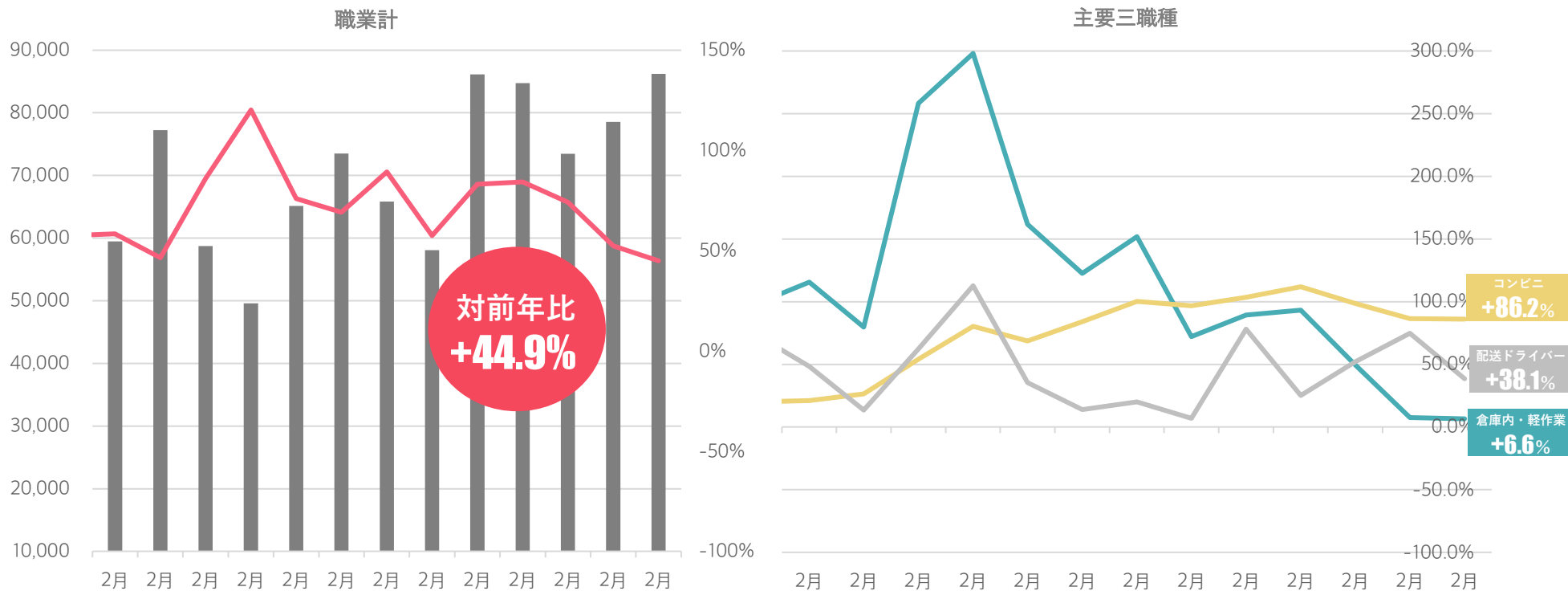


	当月	構成比	前月比	前月	前年同月比	前年同月
■ 職業計	86,214 件	100.0%	9.8%	78,545 件	44.9%	59,479 件
■ イベントスタッフ	4,050 件	4.7%	-12.0%	4,603 件	145.3%	1,651 件
■ 飲食・フード	1,057 件	1.2%	31.0%	807 件	84.5%	573 件
■ 倉庫内・軽作業	27,226 件	32.2%	37.2%	20,211 件	6.6%	26,008 件
■ 組立工	1,511 件	1.8%	4.3%	1,449 件	0.3%	1,506 件
■ コンビニスタッフ	35,631 件	41.3%	-0.3%	35,756 件	86.2%	19,138 件
■ キャンペーン・PR系	1,072 件	1.2%	16.0%	924 件	38.1%	776 件
■ 運送・ドライバー系	8,872 件	10.3%	-5.5%	9,392 件	38.5%	6,407 件

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年11月～2022年11月データを加工

職種別新規ワーク数伸び率推移

- 新規ワーク数は、対前月+9.8%、対前年比+44.9%。
- 主要職種の伸び率では特にコンビニスタッフが対前年+86.2%と順調に伸長。



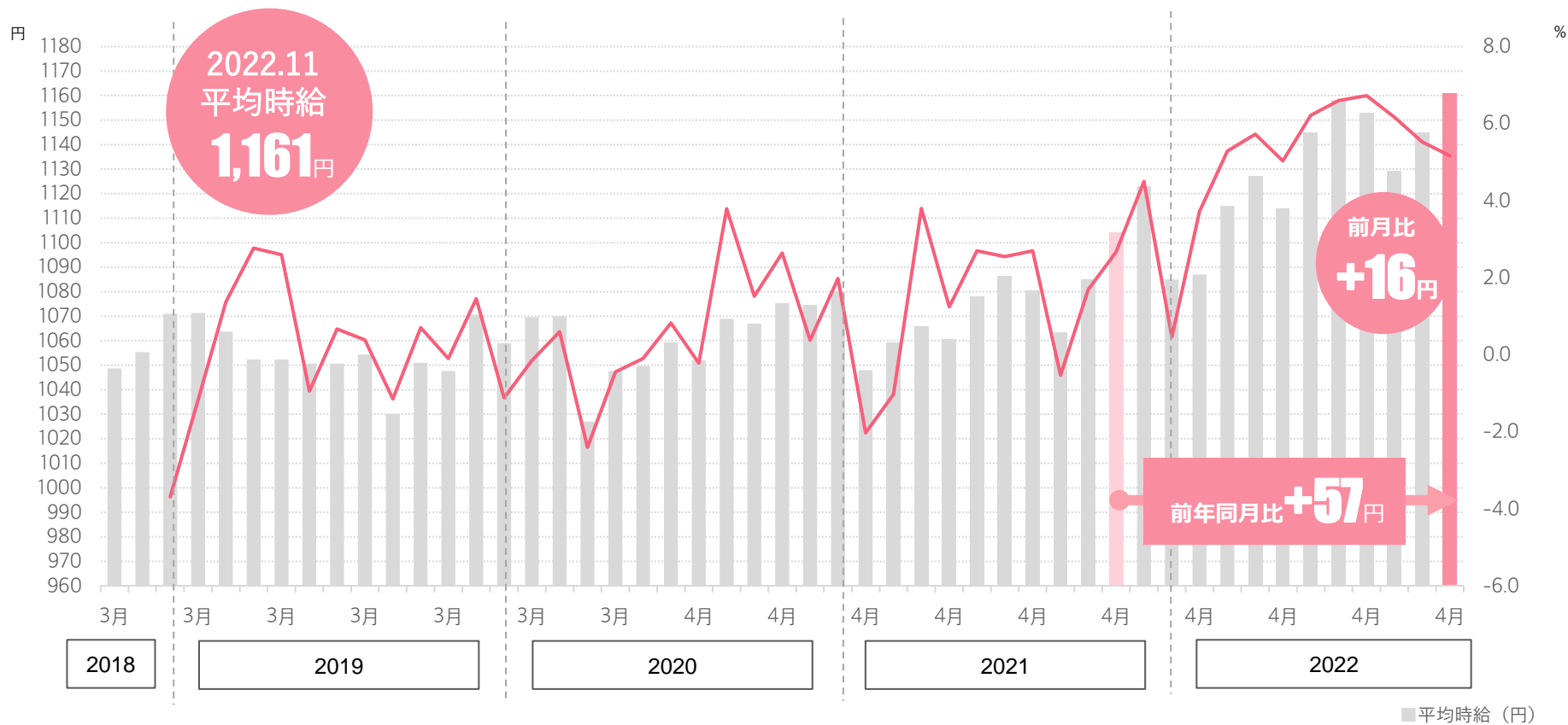
	当月	構成比	前月比	前月	前年同月比	前年同月
職業計	86,214 件	100.0%	9.8%	78,545 件	44.9%	59,479 件
イベントスタッフ	4,050 件	4.7%	-12.0%	4,603 件	145.3%	1,651 件
飲食・フード	1,057 件	1.2%	31.0%	807 件	84.5%	573 件
倉庫内・軽作業	27,726 件	32.2%	37.2%	20,211 件	6.6%	26,008 件
組立工	1,511 件	1.8%	4.3%	1,449 件	0.3%	1,506 件
コンビニスタッフ	35,631 件	41.3%	-0.3%	35,756 件	86.2%	19,138 件
キャンペーン・PR系	1,072 件	1.2%	16.0%	924 件	38.1%	776 件
運送・ドライバー系	8,872 件	10.3%	-5.5%	9,392 件	38.5%	6,407 件

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」2021年11月～2022年11月データを加工

スポットワーク賃金推移

スポットワーク平均賃金の推移

- 2022年11月度のスポットワーク平均時給（首都圏・関西圏・東海圏の三大都市圏）は1,161円（前月から+16円、前年から+57円）。
- 首都圏と東海は前月比、前年比ともに増加。関西のみ前月-2円減少。



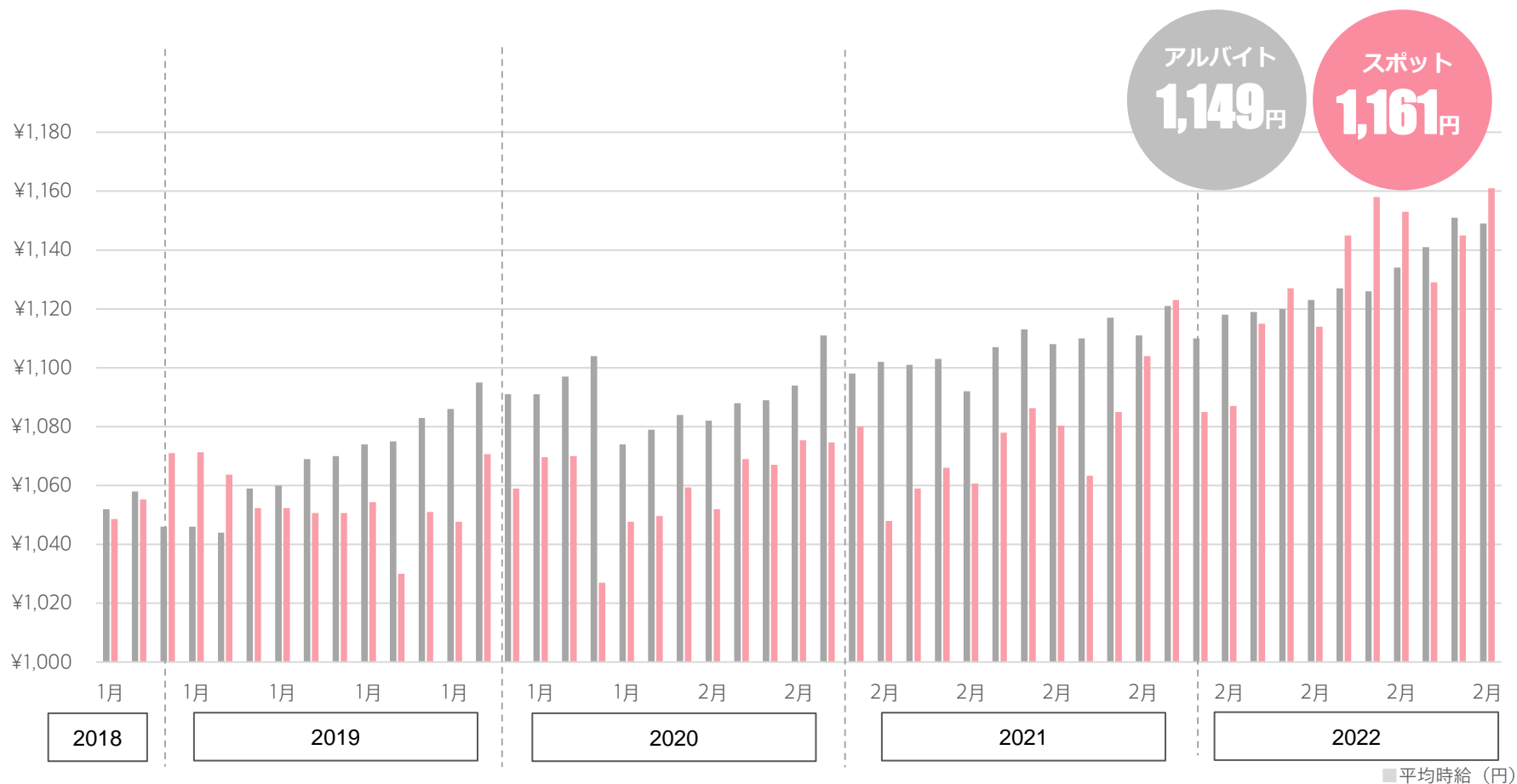
■ 平均時給 (円)

	平均時給	前月比	前年同月比	前月	前年同月
三大都市圏	1161円	16円	57円	1145円	1104円
首都圏	1185円	18円	53円	1167円	1132円
東海	1116円	18円	36円	1098円	1080円
関西	1111円	-2円	11円	1113円	1100円

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年11月～2022年11月データを加工

スポットワーク・アルバイト賃金の格差比較

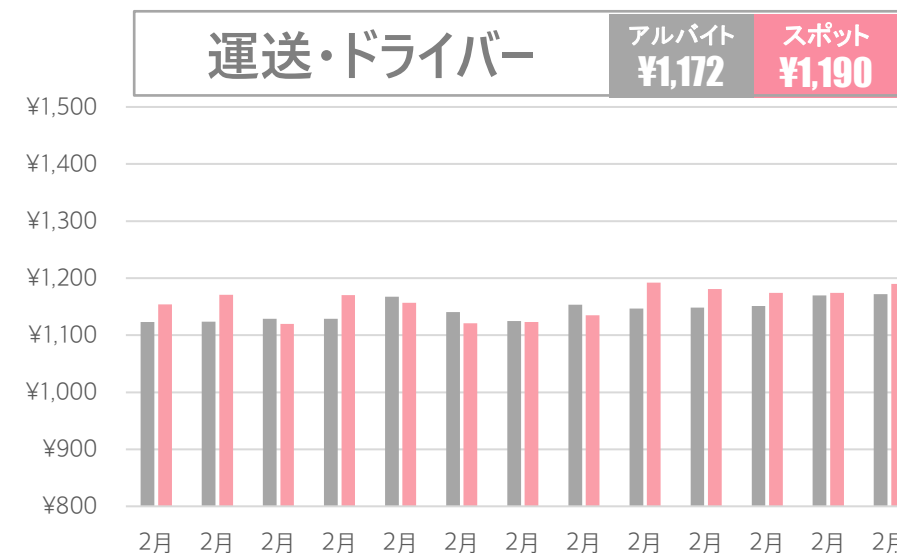
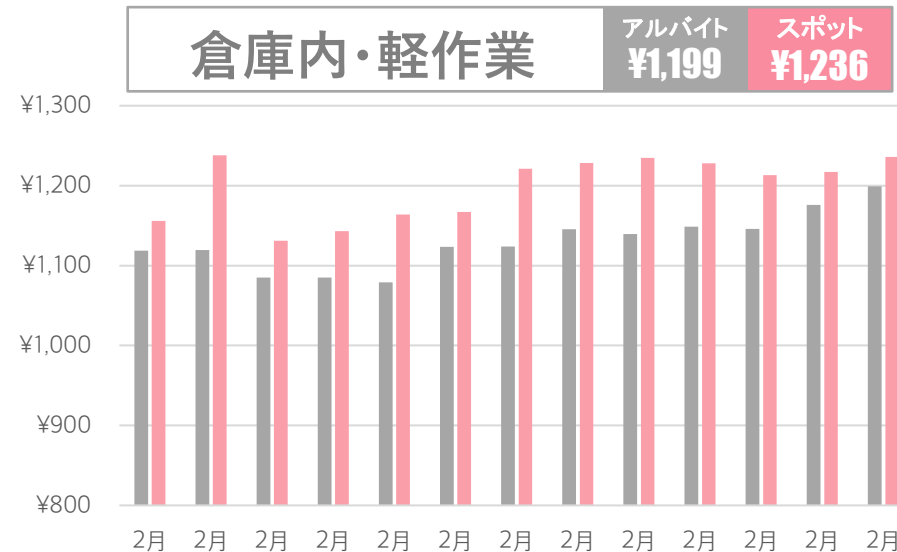
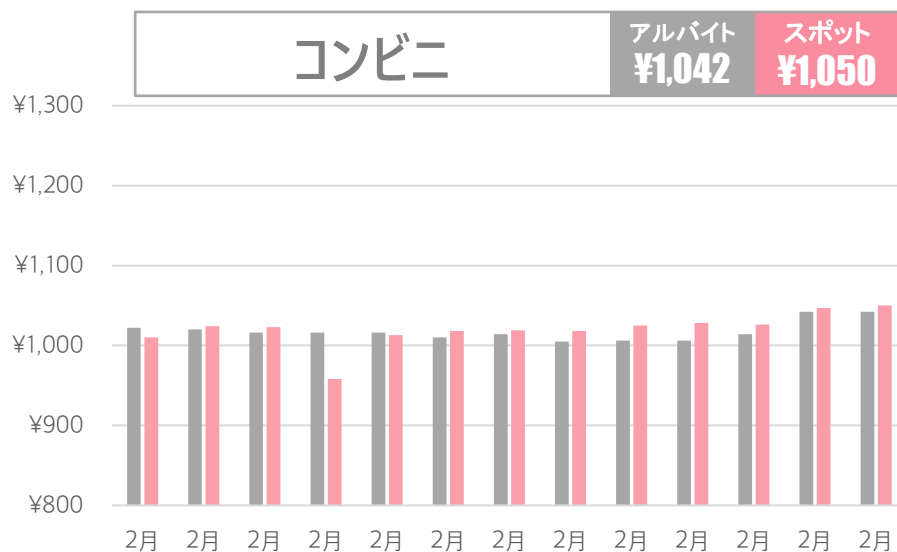
- 通常のアルバイト平均時給（※リクルート発表「アルバイト・パート募集時平均時給調査」）と比較して、スポット時給は12円高い。
- 3か月ぶりにスポット時給がアルバイト時給を上回る。



	平均時給	前月比	前年同月比	前月	前年同月
スポット	1161円	16円	57円	1145円	1104円
アルバイト	1149円	-2円	38円	1151円	1111円

出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年11月～2022年11月データ
リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」2018年11月～2022年11月を加工

参考) スポットワーク・アルバイト賃金主要職種比較



出典) 単発バイト求人サイト「ショットワークス」三大都市圏平均時給2018年11月～2022年11月データ

リクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」2018年11月～2022年11月を加工

注) アルバイト賃金の「コンビニ」はリクルート「アルバイト・パート募集時平均時給調査」における「コンビニスタッフ」を適用

「運送・ドライバー」は「ドライバー・配送・デリバリー」「ドライバー(中型・大型・バス・タクシー)」の平均値を適用

「倉庫内・軽作業」は「物流作業」「発送・仕分け・梱包」の平均値を適用